

ローマ人への手紙 第12章 15節

「喜ぶ者といっしょに喜び、泣く者といっしょに泣きなさい。」

今日は空の途中まで雪模様となり、地上に降りる頃には雨となるらしい。冷たい雨が予想される日となった。この寒空の下、ベランダに三つの薔薇の鉢が置いてある。今のところ一つは葉っぱの他には蕾もなにもつけていない。他の二つの鉢の薔薇は、どちらも5つの蕾がある。ひとつ、ふたつの蕾は咲き始めている。最初の頃は2、3個の蕾であったが5個まで増えた。いまのところそれ止まりである。いずれの鉢も5個止まりであることに興味が湧いた。それだけの話だ。

それに並行して思わされるのは、蕾から花開くまで随分と時間がかかることだ。この寒空の下だと簡単には咲かないことがわかる。辛抱しながら、咲く時を待っている。一輪だけでも同じだろうが、他に4つも仲間がいて忍耐しているとなんとなく安心する。咲く時期は異なるかもしれないが、みな花開くことを目指して時を刻んでいる。

喜びはいっしょに喜ぶ者たちの数ほど増し加わると聞き、体験する。悲しむ者たちの数ほど悲しみは分かち合われ担いやすくなり、さらには、悲しむ者たちのあいだから、慰めと励ましの芽が生まれる。どちらもいっしょが生み出す祝福である。

2021年12月14日